

閑話

「形としての一般競争入札を拡大するのではなく、どうやって公正な競争のための基盤をつくっていくかを検討した」と語るのは、



郷原信郎さん

公正な競争の基盤つくる

山形県公共調達改善委員会の委員長を務めた横浜桐蔭大教授の郷原信郎さん。

公共事業の発注をめぐる県の状況を「競争性を先行させ、一般入札拡大を重視してきた弊害が顕実化してきている」と指摘し、「ある程度は淘汰（とうた）されなければならないが、混乱の中で本来生き残るべき企業が淘汰されているのでは

ないか」と、価格競争の激化による歪みに懸念を示す。

その上で、「受注機会の拡大に値する企業かどうかの評価も必要」とし、「そのためにも社会・県民の要請にこたえる広い意味のコンプライアンス（法令順守）評価を取り込んでいくべきだ」と、県民の意見を反映した企業評価の必要性を強調する。